

50回の節目を迎える 第50回高千穂町駅伝競走大会

2月24日、町スポーツ協会(甲斐教也会長)主催の「第50回高千穂町駅伝競走大会」が行われ、小学生から一般までの6部門に26チームが参加。町総合公園内を周回するコースでタスキをつなぎました。

開会式前、同大会を創設した馬場俊一さんに、大会名誉会長の甲斐町長から感謝状が手渡されました。また、今回、神都高千穂観光大使で名城大学女子駅伝部の米田勝朗監督と部員6人が特別ゲストとして参加。部員らはサポートランナーとして一緒に走り、レースを盛り上げました。

レース終了後に米田監督の講話や部員らによるストレッチ指導が行われました。



冬の高千穂を満喫 トゥギャザーウォーク2024

2月23日、「高千穂トゥギャザーウォーク2024」が4年ぶりに行われました。
がまだせ市場をスタート・ゴールとし、向山(椎屋谷・丸小野)地区を周るコースに約100人が参加。途中のポイントでは、地元公民館が用意したご汁やおにぎり、お茶や漬物などのふるまいを食べ、約12kmを4時間ほどかけ完歩。ゴール後、豪華賞品が当たる抽選会があり、最後まで満喫していました。



地域活性化と住民サービスの向上へ 包括連携協定を締結

2月18日、町と日本郵便株式会社による、地域活性化や町民サービスの向上に向けた包括連携協定の締結が行われました。
締結式には、町内4つの郵便局長らが参加。飯干勝生上野郵便局長が代表し協定書に署名。
「安心・安全な暮らしの実現」「地域経済活性化」「未来を担う子どもの育成」「ダイバーシティ推進」「地方創生」の5項目での連携に向け、今後、具体的な検討を進めることになりました。



地域に根差した伝統芸能の継承 夜神楽を伝承する子どもたちが舞う

2月23日、高千穂神社神楽殿で、高千穂の夜神楽伝承協議会(後藤俊彦会長)主催の「未来に繋ぐ舞神楽」第3回「高千穂の夜神楽子ども伝承者の集い」が行われました。
旭ヶ丘保育園児の舞込みから始まり、各地区の神楽保存会(野方野、立宿、中川登、下川登、河内、上田原、中畑神社、嶽宮神社、下野)に所属する小学生から高校生まで、高千穂高校神楽保存会が出演し、舞を披露しました。



水は限りある資源 高千穂峡で上水道水神祭

2月20日、高千穂峡の御塩井水源池にて上水道水神祭が行われました。
水神祭には、町長を始め、町議会や水道委員、工事業者など関係者44名が参列。水の安全や安定供給を祈願しました。
ここ数年、町内において水不足が深刻な状況にあります。水は限りある資源であり、私たちの生活に関わる大切なものです。一人ひとりが工夫し節水を心がけましょう。

